

愛媛県土壌汚染調査・対策検討委員会 会議結果

- 1 日 時 令和6年12月13日（金）14：00～15：15
- 2 場 所 愛媛県水産会館 5階会議室
- 3 出席者 委員6名 ※1名 Web 出席
高橋 治郎 （愛媛大学名誉教授）
矢田部 龍一（愛媛大学名誉教授）
河野 公栄 （元愛媛大学農学部・大学院連合農学研究科教授）
鳥居 順子 （県立医療技術大学教授）
小島 秀子※ （元愛媛大学大学院理工学研究科教授／
早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構招聘研究員）
佐藤 久子 （元愛媛大学大学院理工学研究科教授／県環境創造センター所長）
- 4 傍聴者 なし
- 5 議 題
土壌汚染対策法に基づく形質変更時要届出区域の指定について【非公開】
- 6 報告事項
東温市六価クロム土壌汚染に係る地下水モニタリング状況について【公開】
- 7 審議等の内容
【報告事項】東温市六価クロム土壌汚染に係る地下水モニタリング状況について

高橋会長

資料において、和暦と西暦が混在しているため、公表するときや、まとめるときは、工夫して分かりやすいようにされたい。

小島委員

今後の対応の仕方（継続監視）で問題ない。

佐藤委員

⑮を廃止できない理由は何かあるか。ほとんど未検出のようだが。

事務局

比較対象として、⑮に汚染が流れていないことを確認するために継続監視したいと考えているが、委員から流向上不要との御指摘・御意見をいただければ、効率化のため削減することも検討したい。

高橋会長

5つに絞るときに、南側の川の近くを残すため、地下水の流れとしては西北西だが、南に振れることがあるかもしれないため残したため、継続監視す

ることが適当である。

佐藤委員

汚染地点である⑩が減ってきて、その下流側の⑫が増えてきている。汚染が⑫に向かっているのか。

高橋会長

降水量や地下水位もみているが、原因が分からない。

事務局

令和6年度の⑩については、11月までの結果であり、例年、冬の地下水位が低下する時期は高くなる傾向がある。年間平均値でみると、今の0.06mg/Lよりは少し上がるかもしれないが、令和5年度の過去最大値よりは、下がる可能性が高いと考えている。地下水位や降雨量と六価クロム濃度の関係が不明な状況が続いているため、すべての地点において継続監視を行い、状況を確認していきたいと考えている。

矢田部委員

以前、移流拡散解析を行ったことがあるが、この場所は、透水係数が非常に小さいため、長期間、汚染が滞留し、何十年もかけて下流側に拡散していく結果であった。このため、以前は、広域に観測点を設け、モニタリングしていた経緯がある。汚染は長期間続き、なかなか拡散しないものである。

高橋会長

矢田部委員はこの案件に初めから関わっており、委員御指摘のように一度汚染があると、なかなか解消されないのが現状である。

いずれにせよ、この案件については、事務局からの報告どおり、今後とも6地点で継続監視をお願いする。